

教育委員会月報



文部科学省

特集

令和6年度「学校における男女共同参画研修」実施報告

Series

地方発！我が教育委員会の取組

地域を担う人材の育成

愛媛県教育委員会

未来を拓き、木城の明日を担う

心豊かでたくましい人づくりを目指して

宮崎県木城町教育委員会

お知らせ ▶ 令和6年度消費者教育フェスタin埼玉開催！
～18歳成人に向けた幼少期からの消費者教育～



2024年11月8日発行 第76巻8号

2024 November



特集

令和6年度「学校における男女共同参画研修」実施報告

独立行政法人国立女性教育会館 [1](#)

Series

地方発！我が教育委員会の取組

地域を担う人材の育成

～ソーシャルチャレンジ for High School事業～

愛媛県教育委員会 [2](#)

未来を拓き、木城の明日を担う

心豊かでたくましい人づくりを目指して

～調和のとれた人間力を育む教育の推進、地域と共に育つ義務教育学校づくり～

宮崎県木城町教育委員会 [7](#)

お知らせ ▶ 令和6年度消費者教育フェスタin埼玉開催！

～18歳成人に向けた幼少期からの消費者教育～ [13](#)

特集

令和6年度「学校における男女共同参画研修」実施報告

国立女性教育会館（NWEC）では、7月23日～9月24日、「ジェンダー平等の視点から学校を変える」をテーマに、初等中等教育機関の管理職・教職員、教育委員会及び教育センター等の管理職・管理主事・指導主事・職員、教育長・教育委員等を対象とした研修を実施し、全国から555名が参加しました。

本研修では、初等中等教育におけるジェンダー平等の促進に向けて、国の最新施策や学校教育分野における男女共同参画の現状・課題の把握、教職員自身の働き方や女性の管理職登用の促進、多様な児童生徒への対応についての理解、組織の実情に合わせた課題解決の方策等を学ぶことを目的としています。

研修期間中は、オンデマンド配信によるプログラムを提供するとともに、8月19日には、「教職員のワーク・ライフ・バランス」「女性の管理職登用とキャリア形成支援」「児童生徒への多様な対応」「学校における男女共同参画推進に必要な連携」の4つのテーマで、ライブ配信による情報交換会（希望者のみ）を実施しました。



↑ 講義「学校におけるジェンダー平等を推進するために必要な視点とは」

学校教育においては、男女共同参画やジェンダー平等についての関心が少しずつ高まってはいるものの、教職員の働き方、女性の管理職登用、児童生徒の多様なニーズへの対応等、課題は山積しています。各講師は、一人一人の個性や尊厳が性別によって制限されず

互いを尊重する環境づくりの必要性和意義、ジェンダー平等を進めていくために必要な視点、学校教育の役割、国の教育分野に係る施策、職場環境づくり、学校現場における実践事例について言及され、参加者は各組織・地域における課題解決に向けたヒントを得ることができました。



↑ 情報交換会「学校における男女共同参画を推進していくために」

研修全体の満足度も大変高く、参加者からは「自分や組織がいかにアンコンシャスバイアスに縛られているかということに気付き、また全国に同じような気持ちで戦っている人がいることを知ることができた」「当たり前を当たり前と考えることの大切さ、無意識で差別化していることについて、改めて振り返る機会になり、教員として気を付けなければいけないことだと実感できた」等の感想が寄せられました。

詳細はこちらをご覧ください。

https://www.nwec.go.jp/event/training/g_kyoin2024.html



地域を担う人材の育成

～ソーシャルチャレンジ for High School事業～

1. はじめに

今日の我が国は、本格的な人口減少時代を迎える中、ライフスタイルや価値観が多様化し、グローバル化・デジタル化等の動きが急激に加速化するなど、大きな社会変革期に直面しています。そのような中、学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標の下、学校と社会が連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を生徒に育むことが求められています。

新しい時代に求められる資質・能力とは、本県では、変化が激しく予測が難しい時代の中でも、自らの発想と力で課題を乗り越え、地域社会の良き創り手として貢献できる「たくましさ」と考えています。

そこで、愛媛県教育委員会では、地域の課題の解決を図る体験的な活動を通して、安心して住み続けることができる街づくりや、主権者としての望ましい態度等について、深く考える姿勢を育成するとともに、本県で活躍する人や企業についても高校生に知ってもらうことにより、将来、地域社会で主体的に活動できる人材育成につなげたいと考え、令和5年度から、ソーシャルチャレンジ for High School 事業を実施することとしました。

2. 令和5年度の取組

本事業は、「地域の課題解決プロジェクト」と「社会共生プロジェクト」の二つの柱から構成されています。

(1) 「地域の課題解決プロジェクト」

一つ目の柱である「地域の課題解決プロジェクト」は、更に二つの内容に分かれています。一つは、「地域の課題解決に向けた研究活動」です。これは、生徒が考

えたアイデアを基に、地元企業等と連携して研究に取り組むものであり、県立高校・中等教育学校の全ての生徒が、在学中に一度は参画します。また、他の模範となる優れた研究を学校間で共有するため、課題解決コンテストである「ソーシャルチャレンジグランプリ」を行います。

各校からは、学校や地域の実情に応じた、様々な研究が寄せられ、一次審査を経て、9校が優秀校に決定しました。次に示したものは、9校の研究テーマです。

学校名	研究内容
小松	・東予歴史文化協議会主催「東予歴史トリップ」の準備・運営 ・「近藤篤山田邸」の展示および「えひめ教育資料館」の整備
今治北	・今治タオルの新商品企画 ・残米を利用したヘアゴムとマグネットを作るワークショップ
今治東中等	・地域に残る桜井漆器関連文化財等に関する課題探究活動 ・桜井海岸の白砂青松に関する課題探究活動
上浮穴	・官民協働プラットフォームと連携した規格外野菜の活用
伊予	・企業が取り組む社会問題や社会貢献についての聞き取り ・生徒会主催「伊予高生が作る伊予高生のための課題解決アイデアコンテスト」の開催
松山西中等	・流れ着く杜鰈養殖パイプの削減に向けた取組
八幡浜工業	・道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」の魅力化に向けた取組
川之石	・農福連携と産学連携6次産業化による地域活性化を目指す取組
宇和	・米の消費拡大と廃棄削減を目的とした米粉の活用についての研究

9校の生徒には、先進的な教育活動の発表と意見交換を通して、研究の普及と深化を図ることや、特色ある取組を紹介し、本県県立高校等で学ぶ魅力を伝えることを目的に、平成26年度から毎年実施しているイベント「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」で発表してもらい、その様子も評価して、知事賞1点、教育長賞2点を選出しました。

知事賞を受賞した今治北高校では、地元の主要産業であるタオル産業について深く知りたいという生徒たちの思いから、商業科3年生の生徒全員で、研究に組みました。研究では、繊維産業の歴史や現状、課題

等について学習を重ねた上で、今治タオルの新商品の企画・開発にチャレンジし、地域の方々のSDGsの意識向上を目指してワークショップを実施しました。新商品の企画・開発については、地元で繊維産業を営む企業の方々の指導・助言を受けながら、授業で学んだマーケティングなどの知識も活用し、班ごとに企画会議を行い、企画書を作成しました。各班は、企画コンペティションの校内予選に参加し、校内予選を勝ち抜いた四つの班が、協力していただいた企業代表者の前で、新商品のプレゼンテーションを行いました。審査の結果、タオル生地でできた「ネックピローとアイマスク」を企画・開発したグループが最優秀企画賞を受賞しました。

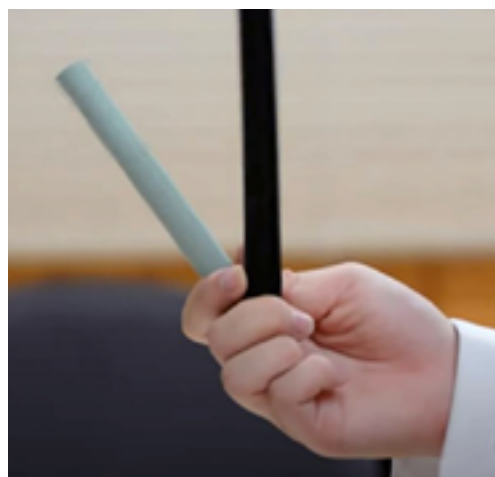


また、生徒たちはSDGsの視点からも、今治タオルの良さを地域住民に伝えたいと考え、タオル製造過程で発生する残糸に着目し、小学生や園児を対象にした、残糸を利用したヘアゴムやマグネットを作るワーク



ショップの企画・運営を行いました。ワークショップは、今治市が主催する「こどもが真ん中フェスタ」の会場にブースを設置して実施し、当日は、50組100名を超える子どもと保護者の参加があり、大盛況でした。

教育長賞を受賞した松山西中等教育学校では、身近な地域や企業が抱える社会課題について、多角的視点から課題解決の方法について探究するため、4年生の生徒が八つの学習班に分かれて研究に取り組みました。その中の「海ゴミ班」の生徒たちは、海岸のゴミ拾いイベントに参加した際、漂着ゴミの中に塩化ビニールパイプが大量にあることに気がきました。また、それが何であるか疑問に思い、サンプルを持ち帰って調べた結果、牡蠣養殖に使用されているパイプである事実を知り、このゴミを減らす方法について考えるようになりました。



生徒たちは、パイプが牡蠣養殖が盛んである広島県から漂着したものであると推測し、広島県の牡蠣養殖について調べる中で、広島県立西部技術センターが、塩化ビニールパイプを、自然に分解される生分解性プラスチックに置き換える実証実験を行っていることを知りました。同センターの職員にインタビューしたところ、生分解性プラスチックの導入は、コスト面や耐久性などの課題があることを知りました。生徒たちは、その実用化のためには、消費者に環境問題について興味をもってもらうことと同時に、生分解性プラスチックを使って養殖した牡蠣をブランド化し、たとえ割高でも、環境にやさしい牡蠣が購入されるよう、幅広く啓発活動を実施してい

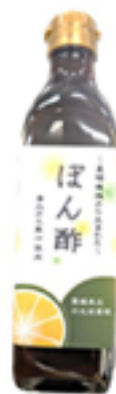
くことが必要であると考えようになりました。そこで、校内で生徒を対象としたワークショップを行ったほか、校外においても、Jリーグのホームゲームがある日に、スタジアム周辺でワークショップを出展し、約150人に牡蠣養殖の現状やパイプゴミについて説明を行いました。また、より多くの人に興味をもってもらうため、養殖パイプを使ったパイプ・アートにも取り組みました。



同じく教育長賞を受賞した川之石高校では、西宇和地域が、日本一の柑橘栽培地帯でありながら、労働力不足が深刻な問題となっていることや、地域で障がい者福祉も課題となっていることから、障害者支援事業所との農福連携、さらには地元企業との産学連携を行うことで、持続可能で豊かな地域モデルを創造する研究に取り組みました。まず、生徒たちは、農福連携の必要性や、地域共生社会の考え方など、農福連携を取り入れた商品開発を行う上で必要な知識を得るため、就労継続支援事業所を見学しました。また、農福連携の

実践として、就労継続支援事業所の利用者の方と、温州みかんの摘果作業や搾汁を行いました。その上で、地元の日本料理店の方からポン酢の製造方法について教えていただいた経験を生かし、農福連携の作業で得られた「摘果みかん」を活用し、地元企業にも協力してもらい、ポン酢を製造することとしました。

ラベルデザインが消費者に与える影響等についても学習し、ラベル制作も行いました。イメージアップのため、「摘果みかん」ではなく「青みかん」という表現にしたり、農福連携を優しい色で表したりするなどの工夫をし、最終的には「農福連携」と「青みかん」というキーワードを表示したラベルを採用しました。



研究に取り組んだ後の生徒の言葉からは、地元の産業についての理解の深まりや、新製品づくりへの興味の高まり、さらに研究を続けていきたいという向上心等が見て取れました。担当した教員も、生徒自身が周囲を巻き込みながら、社会を変えていこうとする強い気



概や、地元への愛着心、地域貢献への使命感の高まり等を評価しています。

紹介した3校の研究について、令和6年2月27日、知事会議室において、知事賞、教育長賞の表彰式を行い、3校の生徒たちは、知事の前で研究の成果を発表しました。

「地域の課題解決プロジェクト」の二つ目の大きな取組として、地域の魅力再発見・PR動画の作成を行いました。各校で、愛媛で暮らすことや、働くことの意義を再発見する、生徒の目線からの動画を作成しました。

各校から提出された動画を特設ページに掲載し、生徒による投票を行い、優秀校を決定しました。



いずれの動画も地域の魅力を伝える優れた作品となっており、各校のホームルーム活動や総合的な探究の時間にも活用できるよう、農林水産業、工業、観光、防災、自然など、11のカテゴリに分類し、「えひめスー



パーハイスクールコンソーシアム特設サイト」に掲載するとともに、県立高校・中等教育学校だけでなく、県内の市町立中学校にも周知しました。皆様もぜひ一度ご覧いただければと思います。

(特設サイト URL)

(<https://sshc.e-catv.ne.jp/sshc2023/>)

(2) 「社会共生プロジェクト」

二つ目の柱である「社会共生プロジェクト」も「主権者・消費者教育プログラム」と「多世代交流プログラム」の二つに分かれています。

「主権者・消費者教育プログラム」では、一般社団法人と連携した模擬請願やルールメイキングプロジェクト、選挙管理委員会と連携した出前講座や模擬選挙、金融広報委員会や民間企業と連携した金融セミナー、消費生活センターと連携した消費者教育講演会等、各校において、地域社会に生きる主権者・消費者として、自ら考え行動できる人材の育成を図る取組を推進し、生徒の政治的教養や消費者としての意識の高揚を図ってきました。

また、「多世代交流プログラム」では、延べ11,711人の生徒が、幼稚園児・保育園児や高齢者等、幅広い世代との交流を通して、他者を思いやる心や、自己を肯定する豊かな心を育んできました。

3. 令和5年度の成果

「地域の課題解決プロジェクト」を実施することで、これまで、県の事業において指定校ではなかった多くの学校が、地域に根差した魅力的な研究に挑戦するようになりました。課題解決に係るコンテスト等への積極的な参加も行われ、優れた成果を上げる学校も増えました。

また、独自に実施したアンケート調査の結果において、「課題解決学習に主体的に取り組めた生徒」の割合は当初の目標であった70%を上回る80.2%となり、「地域への愛着が高まった生徒」の割合も83.2%となるなど、良好な結果が出ており、これらの数値からも取組の成果を実感しているところです。

4. おわりに

本年度も、昨年度と同様に取組を継続する中で、特に地域課題解決のための研究活動の内容が深化したり、対象分野が広がったりすると考えられるため、えひめスーパーハイスクールコンソーシアムのイベントや特設ホームページの改善に努め、好事例の共有を進めるとともに、より多くの方に高校生の活躍を見ていただきたいと考えています。

目指すところは、県立高校・中等教育学校の生徒が、自分と地域社会のつながりについて今まで以上に考えるようになり、地域に誇りと愛着を持ったり、自分の行動が社会に影響を与えることができると考えられるようになったりすることです。そのためにも、愛媛県教育委員会としては、地域課題解決学習に主体的に取り組む高校生の割合が大きくなるよう、学校を支援したいと考えています。

未来を拓き、木城の明日を担う 心豊かでたくましい人づくりを目指して

～調和のとれた人間力を育む教育の推進、地域と共に育つ義務教育学校づくり～

1. はじめに

宮崎県木城町は、豊かな自然と温かい地域社会に恵まれた適疎な町です。少子高齢化や人口減少が進む中、町内にあった木城小学校と木城中学校の2校を義務教育学校「木城町立みどりの杜木城学園：児童生徒数 476 名」として再編し、新たに建設した校舎で令和5年4月に開校しました。この新しい学校では、町教育委員会と学校が一体となり、地域全体で子どもたちを育てる教育環境の整備に取り組んでいます。9年間を通じて一貫した学びを提供することで、子どもたちが心豊かでたくましく成長し、地域に根ざした未来を担う力を育むことを目指しています。

本稿では、木城町教育委員会と義務教育学校の連携体制や学校が掲げる教育構想を紹介するとともに、町教育委員会と学校及び首長部局も含めた一体的な連携によって進めている特色ある6つの取組について紹介します。



【新築された校舎：みどりの杜木城学園】

2. 町教育委員会と義務教育学校との一体的な連携と行政側からの支援

(1) 日常的な協議・連携

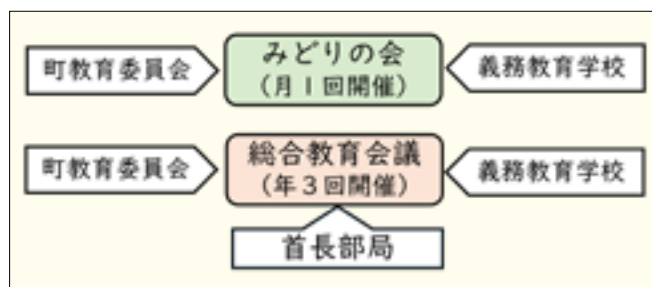
町教育委員会では、「1町1校」という特色を生かし、義務教育学校との日常的な協議・連携を通じて、教育現場のニーズや課題を迅速に把握し、柔軟に対応する体

制を整えています。この日常的な連携により、情報共有や問題解決をスムーズに行うことができます。

(2) 計画的な協議・連携

月に1回開催される「みどりの会」には、学校管理職と町教育委員会が参加し、学校の現状や学校が抱える課題の共有と解決に向けた協議が行われます。また、年に3回行われる総合教育会議は、首長部局が教育委員会や学校管理職を招集し、学校の取組状況を共有する重要な場として機能しています。この会議では、学校の成果や課題について意見をもらい、更なる改善策を模索することにもつながっています。

このような一体的な連携は、木城町が心豊かでたくましい人づくりを目指す上で不可欠なものです。地域の特性を生かした教育を推進し、子どもたちが安心して学べる環境を整えるため、今後も継続的な連携・協働が期待されます。町教育委員会として、地域とともに育つ義務教育学校づくりを進めていくことが重要な使命です。



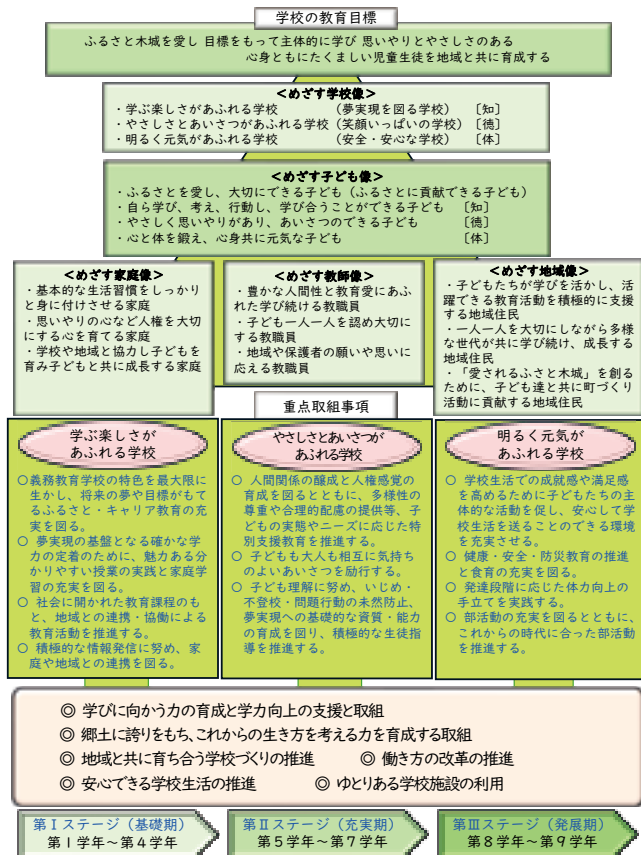
【町教委、学校、首長部局との一体的な連携】

3. 義務教育学校の教育構想

本町の義務教育学校における教育構想は、町教育委員会との一体的な連携や行政側の支援を基盤とし、地

域の未来を担う人材育成を目指しています。

【令和6年度 みどりの杜木城学園 教育構想】



4. 特色ある取組

(1) 学びに向かう力の育成と学力向上の支援と取組

先行き不透明な時代をたくましく切り拓く力を育成することは喫緊の課題です。そのためには、一人一人が自ら学びに向かう力を育てることを基盤に、確かな学力を身に付けることが重要です。子どもたちの主体的な学びを支援する教育環境の整備が、確かな学力の定着を実現するための鍵だと考えています。

① 授業改善とICT活用

義務教育学校では、9年間の系統性・連続性のある教育活動が可能であり、この特色を生かす上では、教師間での共通理解・共通実践が大切です。

学校においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「木城スタンダード（授業づくり・進め方のポイント）」や「ICTの活用（木城モデル）」を作成し、各教

師が子どもの実態や発達段階に合わせながら、日々の授業改善に取り組んでいます。

教育委員会では、この取組を支援・推進するため、宮崎大学と連携（予算化）し、学校の求めに応じて講師を招聘（昨年度は年間18回）し、日々の実践や職員研修等における指導・助言をいただいています。また、ICT活用を円滑に推進するために、専門的知識の提供や技術的サポートを行うICT支援員（学校に常駐）を雇用・配置しています。このことが、教員の負担軽減や授業の質の向上にもつながっています。

② 自ら学ぶ力を育むグリーンタイム

義務教育学校の特色を生かし、学力向上等の学校の教育的課題や生徒が自ら学び、自ら活動できる時間を創設するために、1単位時間を45分授業とし、短縮された5分間を集めた特設の時間「グリーンタイム（週3コマ）」を後期課程において設定しています。

グリーンタイムについては、本年度開始したばかりの取組です。現在は、各自の課題に応じたドリル学習や思考力の育成を目指した探究活動等を計画・実施していますが、毎回、集中して学習に取り組む生徒の姿が見られます。

学びに向かう力の育成に向け、更に効果的な活動が行えるよう、教育委員会としても学校と一体となって取組を支援していきたいと考えています。



【「グリーンタイム」で個々の課題に取り組む9年生】

③ 学びを支援するスタッフの補充

義務教育学校における質の高い授業の提供や個別最適な学びの一層の充実に向け、町教育委員会では、学

びを支援するスタッフ(町雇用)の補充にも努めています。

- 学力向上サポーター：7名
- 特別支援教育サポーター：5名
- 特別支援学級支援員：1名
- ALT：1名

学力向上サポーターは、TTによる教諭の授業支援に加え、少人数指導における単独授業も担当しています。また、特別支援教育サポーターは、通常学級における支援の必要な子どもへの指導や、特別支援学級に在籍する子どもたちの交流及び共同学習のサポート等、個々の実態に応じて柔軟に対応しています。特別支援学級支援員は、介助の必要な子どもたちの支援を行っています。ALTについては、学校に常駐とし、専科教員とともに日々の授業の充実に向けて取組を進めています。

学びを支援するスタッフの補充は、教育の質の向上と教員の負担軽減に資する重要な施策の一つです。

④ 図書館教育の充実と他団体との連携

子どもたちの学びへの意欲を高め、学力向上を図る上で、図書館教育は重要な役割を果たしています。本町では、地域の団体「木城えほんの郷」と連携し、学校図書館に専門の司書を雇用することで、図書館教育を強化しています。

この取組により、教科指導に活用できる移動図書の準備が進められ、子どもたちが様々な学びの機会を得られ

る環境が整備されています。他団体との協力を通じて、図書館の活用が更に広がり、子どもたちの読書習慣の定着や、自ら学ぶ力の育成につながっています。

(2) 郷土に誇りをもち、これからの生き方を考える力を育成する取組

地域に根ざした教育の重要性が高まる中、学校と連携して以下の取組を進めています。

① ふるさと・キャリア教育の充実

義務教育学校においては、9年間を見通した総合的な学習の時間「キータイム」の全体計画に核となる体験活動を位置付け、ふるさと・キャリア教育の充実に取り組んでいます。

町教育委員会では、学校内に地域コーディネーター(1名)を配置することで、地域人材や関係機関との連絡調整等、各学習や体験活動の円滑な実施を支援しています。

【総合的な学習の時間 全体計画】

		ふるさと教育で 育てたい力	総合的な学習の時間・生活科の 核となる体験活動
第Ⅰステージ	1年 ～ 4年	私たちの住む木城町にある施設や自然、文化、伝統などについて学び、木城町のよさを知ろう	○ いっしょにあそぼう(昔から伝わる遊びを楽しもう) ○ 梅ジュースづくり ○ まちたんけん①② ○ ネイチャーゲーム体験 ○ ホタルについて知ろう ○ 切原川への水質調査 ○ 木城町にホタルをよみがえらせるために私たちにできること ○ 比木神社を見学して学びを深める ○ 「福智王踊り」の作成や伝承に携わった方の思いを知る ○ 美郷町へ行き、学びを深める
第Ⅱステージ	5年 ～ 7年	私たちの住む木城町の産業や伝統芸能、農業、福祉などについて学び、木城町のよさや課題を考えよう	○ 校外学習(田植え・草刈り・稲刈り) ○ 我が町の「ふるさと納税返礼品」を考える! ○ 木城町の観光大使になろう ○ 沖縄への修学旅行 ○ 校外学習1(企業訪問) ○ 校外学習2(上級学校等訪問) ○ 木城を語る会I 福祉の視点で地域を見直し、自分たちができることを提案・実践
第Ⅲステージ	8年 、 9年	これまでの学びを基にこれからの木城町と自分との関わりについて考え、発信しよう	○ 職場体験学習 ～立志のついで～ ○ 東京への修学旅行 ○ 企業と語る会 ○ 自分の未来を地域に語る会



【「木城えほんの郷」との連携により整備された図書室】

② 未知の世界を学ぶ校外学習等の充実

未知の世界を学ぶことで広い視野を養い、地域社会や多様な価値観への理解を深めることを目指し、校外学習等の充実にも努めています。

(ア) 修学旅行の充実

義務教育学校における修学旅行では、6年生が沖縄県、8年生が東京都を訪れています。町の修学旅行補助事業により保護者の自己負担を抑えつつ、他地域を学ぶ機会を充実させています。



【民泊協力隊の方々の歓迎を受ける6年生】

(イ) 海外派遣事業の実施

夏休み期間には、参加希望者を募り、台湾への海外派遣事業（3泊4日）を実施しています。昨年度は15名、本年度は20名を派遣しました。行程は、台湾の史跡等の見学に加え、地元中学校を訪問しての交流会も実施しております。台湾訪問2度目となった本年度は、交流校との姉妹校締結も行い、日々の授業におけるオンラインでの交流活動の実施も進んでいます。



【姉妹校締結式の様子】

(3) 地域と共に育ち合う学校づくりの推進

本町では、学校が学びの場であると同時に、地域活性化の拠点となることを目指しています。

① 学校運営協議会

みどりの杜木城学園では、学校運営協議会を年間4回開催し、地域と学校が一体となった教育環境の整備を推進しています。協議会は「夢実現部会」「笑顔部会」「安心・安全部会」の3つの部会で構成され、それぞれが学びや心の豊かさ、安全・安心な環境の実現に向けた取組を進めています。

協議会委員には、学校の地域コーディネーターを兼ねたコミュニティスクールディレクター（町雇用）を配置しており、地域学校協働本部の活動とも適宜連携が図られるようにしています。本年度からは、協議会から「学校運営協議会だより」も発行されるなど、地域全体で教育の充実を図る体制が整いつつあります。

【令和5年度 地域学校協働活動の実績】

	依頼者	依頼内容	実施日・場所	依頼先
1	5年生	田植え体験の支援	4/22 実習田	JA木城青年部
2	1年生	梅ジュースの作成	5/31 1年教室	地域婦人連絡協議会
3	木城盆踊り実行委員会	うちわデザイン制作	6/6～ 木城学園	1年生・7年生
4	8年生	公民館長と語る会	6/16 木城学園	自治公民館長
5	8年生	職場体験学習	7/11、12 木城町内	各事業所
6	7年生	職業インタビュー	7/13 木城町内	各事業所
7	4年生	比木神社訪問	7/13 比木神社	比木神社宮司
8	地域学校協働本部	コスモス大作戦	7/18～ 木城学園	学校、地域の方々
9	地域学校協働本部	フジバカマの植栽	7/18～ 木城学園	学校・地域の方々
10	5年生、6年生	裁縫、ミシンの授業支援	10/10～ 家庭科室	地域婦人連絡協議会
11	社会福祉協議会、福祉課	小さなコンサート開催	10/14 学校交流ホール	学校、地域の方々
12	ふるさと祭り実行委員会	祭りの運営委員募集	10/21 町多目的広場	木城学園生
13	9年生	ジモトの企業と語る会	10/27 木城学園	町内、県内企業

14	木城学園	生涯学習のつどい、授業参観	11/11 木城学園	保護者、地域の方々
15	1年生	昔の遊びで高齢者と交流	11/24 木城学園	さんさんクラブ
16	2年生	石河内探検	11/28 石河内地区	石河内公民館長
17	7年生	木城を語る会	12/8 木城学園	自治公民館長
18	社会福祉協議会	「キガルフマン」開催	12/16 木城学園中庭	学校、地域の方々
19	5年生	ふるさと納税講話	1/19 木城学園中庭	まちづくり推進課

② 地域学校協働活動

地域学校協働活動では、地域コーディネーターの配置により円滑な計画・実施につながっています。令和5年度は、全19回の地域学校協働活動が実施されました。学校から各団体への依頼に加え、地域の団体や協働本部から学校に依頼された活動も含まれており、地域全体で子どもたちを支える仕組みが強化されています。学校と地域が協力し合いながら、多様な学びの機会を創出し、共に成長していく環境が着実に育まれています。

(4) 働き方改革の推進

働き方改革の推進は、教職員の心身の健康を保ち、子どもたちに質の高い教育を提供するための基盤となるものです。

① ゆとりある校時程の工夫（後期課程）

前述(1)②の通り、後期課程の授業の1単位時間を50分から45分に短縮したことで、部活動の開始時刻は、週4回実施のうち3回は15時30分に設定しています。

13:35	5校時 (45)			
14:20				
14:30				
15:15	6校時 (45)			
15:20	部活動 (10)	GreenTime (45)	部活動 (10)	GreenTime (45)
15:30	部活動 (10)	部活動 (10)	部活動 (10)	部活動 (10)
15:40	終 礼	会議等	終 礼	終 礼
15:50	終 礼	会議等	終 礼	終 礼
16:05	諸事務	15:35~16:20	諸事務	諸事務
16:10	教材研究	部活動 (10)	部活動 (10)	教材研究
16:20	部活動	部活動	部活動	部活動
16:30	部活動	部活動	部活動	部活動
	15:30 ~16:30 (延長17:20)	16:25 ~16:30 (延長17:20)	15:30 ~16:30 (延長17:20)	リフレッシュ デイ 15:30 ~16:30 (延長17:20)

【後期課程を45分授業にした校時程（午後）】

また、「部活動は、基本的に午後4時30分の勤務時間終了まで。ただし、顧問、部員の意思で午後5時20分まで延長可能」と定めたことで、部活動指導の負担軽減につながっています。

② 共に支え合う組織づくり

義務教育学校では、働き方改革の一環として、共に支え合う組織づくりを進めています。全学年に副担任を配置し、学年担任制を導入することで、教師同士の連携を強化しています。また、前期課程の1年生から4年生には一部専科制を取り入れ、5年生から9年生は専科制を実施しています。このことにより、多様な視点で児童生徒を見守る体制が整い、教育の質も向上しています。このような取組により、教師の負担が軽減され、よりよい教育環境の充実に努められています。

(5) 安心できる学校生活の推進

安心できる学校生活を推進することは、子どもたちの心身の健康を育む上で非常に重要なことです。ここでは、安心できる居場所の提供と健全な食環境を整えることについて紹介します。

① 安心できる居場所づくり

本年度より、昨年まで学校外に設定していた適応指導教室を、校内教育支援センター（通称：アオバトルーム）として学校内に開設し、支援員を配置しました。ここでは、不登校児童生徒の学校復帰をはじめ、自立に向けた多様なニーズに応える支援を行っています。校内に設置されたことで、子どもたちが気軽に訪れやすく、悩みや不安を抱えた際にすぐにサポートを受けることができ、子どもたちのメンタルヘルスの向上にもつながります。また、支援員が校内にいて、学校職員との連携がしやすくなり、より迅速な対応も可能になっています。

② 安全な食材での給食

木城町では、地元で生産される食材を使用した給食を提供しています。特に、米や野菜については、町として力を入れている化学肥料や農薬を使わないオーガニック食材も使用する等、安全・安心な給食の提供に注力しています。また、地元農家を支援することで、地域経済の活性化にも貢献しています。給食を通じて食の大切さ

や健康な食生活について学ぶ機会が増え、食に対する意識を高めています。



【地域食材を使った給食】

入口が特徴です。これにより、子どもたちが心地よく学びに集中でき、学習意欲を高めます。広い空間は安心して移動できるだけでなく、人々との豊かな交流活動も促されます。



【幅3mの廊下】



【1階交流広場】

(6) ゆとりある学校施設の利用

最後は、ゆとりある学校施設についてご紹介します。新しく建設した校舎のコンセプトは、「学びと交流の場」「安心安全な場」「ゆとりある学習環境」の3つです。

① 学びと交流の場

子どもたち同士の交流が促進されるよう、コの字型構造の校舎の中央に全ての子どもが利用する図書室や交流スペース、多目的室を配置しています。また、地域との交流促進のために、地域ラウンジや、地域住民が利用する専用の出入口も設置しています。



【1階地域ラウンジ】

② 安全・安心な場

新校舎には、避難物資や非常時の電源も備えており、地域防災の拠点としての役割も果たしています。猛暑日には、クーリングシェルターとしても機能しました。



【3階防災倉庫の避難物資】

③ ゆとりある学習環境

新校舎は、明るい教室と広々とした廊下や開放的な出

5. おわりに

木城町における義務教育学校づくりは、地域全体で子どもたちを見守り、次世代を育む持続可能な教育環境の整備を進める大切な挑戦です。行政による手厚い子育て支援策を背景に、子育て世帯が安心して暮らせる環境を整えながら、少子化や人口減少等の課題にも地域全体で取り組んでいます。

今後も、子どもたちが「ここで学びたい」、保護者が「この学校に通わせたい」、地域の方々が「この学校を支えたい」、そして教職員が「ここで働きたい」と思える学校づくりを進め、地域と共に成長し、未来を拓く心豊かでたくましい人づくりを目指していきます。

令和6年度消費者教育フェスタin埼玉開催!

～18歳成人に向けた幼少期からの消費者教育～

男女共同参画共生社会学習・安全課

 文部科学省

令和6年度

消費者教育フェスタ

in 埼玉

全国唯一
消費生活に特化した
参加体験型施設です
裏面参照

幼稚園・小学校でいかせる
アイデアたくさん!



©CA

18歳成人に向けた 幼少期からの消費者教育

ー 彩の国くらしプラザでの体験・対話にみんなあつまれ! ー

子どもたちは日々、見て、聞いて、触れて、体験を通じて様々なことを学びとります。
「お金」に関する学びも、幼少期からの体験の積み重ねです。
“体験”をキーワードに、子どもたちへの消費者教育のあり方を、一緒に考えましょう。



日時 令和6年
12月10日(火)
13:00～16:30 (受付:12:30～)

会場 SKIPシティ A1街区 多目的ホール他
*彩の国くらしプラザは、SKIPシティA1街区2階です。
*受付は1階・多目的ホール前で行います。

定員 会場・オンライン配信 **各150名**

対象 教育関係者、行政職員、事業者
NPO、大学、保護者等、関心のある方

申込 **参加無料・先着順**
申込フォームよりお申し込みください
会場締切:12月2日(月)
オンライン配信締切:12月6日(金)



申込フォーム

基調講演

子どもの主体性を引き出す学び
～幼少期からの消費者主権を目指して～



しお み とし ゆき
汐見 稔幸 氏

東京大学名誉教授
白梅学園大学名誉学長
全国保育士養成協議会会長
日本保育学会理事(前会長)
一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっちゃん」
川口市マスコット「きゅぼらん」

主催:文部科学省
共催:埼玉県、川口市
後援:消費者庁、埼玉県教育委員会、川口市教育委員会、埼玉県金融広報委員会
キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会、ESD活動支援センター
NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会埼玉支部
日本消費者教育学会、全国幼児教育研究協会、全国保育協議会、全国小学校家庭教育研究会
全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会、川口市私立幼稚園協会

企画・運営 公益財団法人消費者教育支援センター

開会前にもシアターでアクティブラーニング体験ができます
11:30～12:00「ネットと友達になる方法」(ネットリテラシー 小学生向け)
12:15～12:45「きみはどこからきたの」(食育 園児向け)

プログラム

13:00 挨拶

13:10 基調講演 子どもの主体性を引き出す学び
～幼少期からの消費者主権を目指して～
東京大学名誉教授 汐見稔幸氏

14:00 実践報告 体験型のお金の学び
子供のお金教育を考える会代表 あんびるえつこ氏

14:20 施設紹介 体験施設「彩の国くらしプラザ」

14:40 <体験・交流>
彩の国くらしプラザの体験と
消費者教育実践団体との交流タイム！

体験 くらしーシアター *会場2階
「使い方でミライを変えよう(SDGs小学生向け)」

体験 くらしースクール *会場2階

展示交流 消費者教育実践団体

埼玉大学や埼玉りそな銀行
など消費者教育実践団体と
交流・連携を深めよう！



15:45 <グループディスカッション>
「18歳成人に向けた幼少期からはじめる消費者教育」
体験をキーワードに消費者教育の実践について、
多様な参加者と話し合っ、考えを深めよう！
メインファシリテーター：

独立行政法人国立女性教育会館理事長 荻原なつ子氏

16:25 挨拶 文部科学省消費者教育推進委員会委員長 上村協子氏
国立大学法人東京農工大学常勤監事

16:30 閉会

彩の国くらしプラザの紹介 こどもたち とにかくみんな も・い・あ・が・る！

くらしーシアター



おれ、
クラッパー！
陽気なラップで
SDGsを
紹介するyo!

ボクはくらしー！
楽しくお話ししながら、
映像を見たりクイズを
するよ！

くらしースクール

ピンポン！ きみならどうする？



うわあ！
悪質な訪問販売員が
来たよ！ どうしよう！

上手におつかい できるかな？



渡されたお金で、
頼まれたもの
買ったかな？



会場アクセス

SKIPシティ(彩の国くらしプラザ)

〒333-0844 埼玉県川口市上青木3-12-18

電車・バスでお越しの場合

・JR京浜東北線 西川口駅東口 バス5番乗り場
・JR京浜東北線 川口駅東口 バス7,8,9番乗り場 } バス停「川口市立高校」下車
・埼玉高速鉄道 鳩ヶ谷駅西口 バス2,3番乗り場
有料駐車場あり (200円/h)



アクセス

問い合わせ先

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
消費者教育推進係 TEL:03-5253-4111(内線2260)

申込問い合わせ先
公益財団法人消費者教育支援センター
TEL:03-5466-7341
E-mail:festa2024@consumer-education.jp

お申込みはこちら：<https://www.consumer-education.jp/2024festa/>

時代を紡ぐ

6月のとある週末、祭好きの私は、日本三大祭に数えられる「山王祭」を一目見てみたい思いに駆られ、京橋に足を運んだ。2018年以来、コロナ禍を経て6年ぶりの開催。賑やかなお囃子の中、氏子たちが高張提灯を掲げ、息の合ったかけ声で神輿を揺らす姿に、見物人ながら心が躍った。

生まれ育った町にも「ホーエンヤ祭」という祭がある。神輿、榊（さかき）、麒麟獅子舞、大名行列、武者行列、子供神輿が一連の行列となり、町中を練り歩く。行程の途中で、ホーエンヤ船に乗り込み、複数の伝馬船とともに川を下ることから、「ホーエンヤ祭」と呼ばれている。江戸時代初期に始まり、およそ350年間引き継がれている伝統的な祭で、県の無形民俗文化財に指定されている。

2年に一度の大祭は、小さな子供からお年寄りまで参加する町の一大行事である。小学生の下学年は子供神輿、上学年は大名行列、中学生は榊、高校生は武者行列、二十歳前後の青年が麒麟獅子舞、大人たちは、神輿、伝馬船を担う。祭が近づくにつれ、練習にも熱が入り、夜遅くまで太鼓や鐘の音が町中に鳴り響く。小さな頃から慣れ親しんだ拍子を聞き、胸が高鳴る。

当日、町は総出の大祭。それぞれが衣装を整え、神社の参道に集結する。境内で神事が終わると、それぞれが動き出し、町中でかけ声と拍手が交差し、たくさんの笑顔で溢れかえる。水上では、「ホーエンヤ!」のかけ声が響き渡り、祭を盛り上げる。神輿の御宮入りで祭は最高潮となり、麒麟獅子舞の勇壮な舞いで幕が閉じる。終わった時のやり遂げた達成感と心地よい疲労感がたまらない。この町に生まれてよかったと感じる瞬間である。

江戸時代から350年もの間、引き継がれてきたホーエンヤ祭。長い歴史の中で、前の人から次の人へと受け継がれ、その時代に合ったやり方に少しずつ形を変えながらも、途切れることなく今日まで引き継がれてきたことに畏敬の念を感じる。ときには天災や流行り病があり、途絶えてしまう危機も何度もあったことと思う。その度に、この町で生きた多くの先人たちが、強い思いをもち知恵を出し合い、乗り越えてきた。時代は大きく変わろうとしているが、私たちの世代が次の世代へとしっかり引き継いでいかねばならない。次の世代の主役は子供たち。子供たちが大きく成長し、麒麟獅子舞を舞う姿が待ち遠しい。

時代を紡ぎ、故郷の原風景をいつまでも。

(E. H)